

平成 26 年 3 月 28 日

東京地下鉄株式会社
東日本旅客鉄道株式会社

東京地下鉄千代田線及び J R 常磐（緩行）線における A T C（自動列車制御装置）による 自動制御不能状態での運転について

3 月 24 日（月）東京地下鉄千代田線代々木上原駅から相互乗り入れをしている J R 常磐（緩行）線新松戸駅までの間にて、A T C による自動制御が機能しない状態で運転していたことが判明いたしました。お客様には大変ご心配とご迷惑をおかけしましたことを深くお詫び申し上げます。

詳細は、下記のとおりです。

記

1 発生日時

平成 26 年 3 月 24 日（月） 7 時 4 2 分～8 時 3 9 分

2 発生場所

東京地下鉄千代田線代々木上原駅から J R 常磐（緩行）線新松戸駅までの間

3 概要

東京地下鉄担当運転士は我孫子発代々木上原行列車を綾瀬駅（東京都足立区）で J R 運転士から引き継ぎ、代々木上原駅（東京都渋谷区）折り返し線にて、運転台の A T C 切換えスイッチを『A T C』位置に切換えるところ、切換えが不適切で A T C 装置が『切り』となっている状態であることに気づかず、代々木上原発柏行列車として綾瀬駅まで車内信号機の現示に従い運転を継続し、綾瀬駅にて J R 運転士へ引き継ぎました。

綾瀬駅にて引き継ぎを受けた J R の運転士は綾瀬駅を発車した後、松戸駅（千葉県松戸市）に到着する際、信号の表示どおり自動的にブレーキがかからない事に気づき、直ちにブレーキ操作を行い松戸駅に到着しました。その後、新松戸駅（千葉県松戸市）到着後改めて機器整備を行い、安全を確認して運転を継続しました。

なお、A T C の車内信号表示は正常に動作しておりましたが、松戸駅到着時に A T C による自動ブレーキが動作しないことに運転士が気づき、直ちにブレーキを扱いました。

これにより、東京地下鉄及び J R において、速度制限のある箇所において制限を超過して運転したことがわかりました。

4 影響

これによる列車の遅れ、お客さまのケガ等はありません。

5 原因

東京地下鉄担当運転士が、適切な機器の切り換えを行わなかったもの

6 今後の対応

【乗務員関係】

機器の切り換えを確実に行うとともにATCの動作状態の確認を徹底しております。

【車両関係】

ATC切り換えスイッチが不適切位置とならない処置を3月28日の車両運行開始前までに終了しております。

以上



E233系運転台



ATC切り換えスイッチ